昭和39年11月10日第三種郵便物認可　昭和41年4月5日国鉄首都特別扱承認雑誌第2343号　昭和49年1月1日発行　第11巻第1号通巻125号(毎月1回・1日発行)

月刊漫画ガロ

1

NO.125

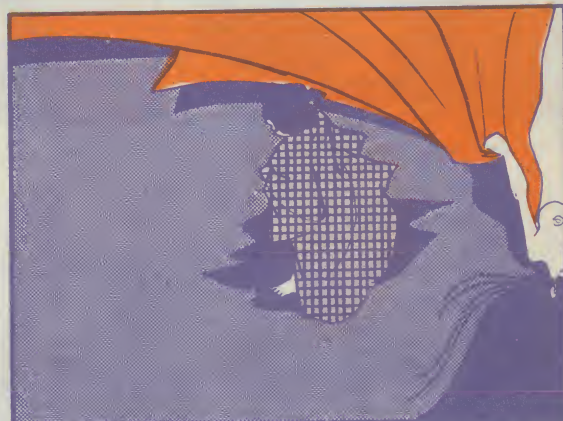
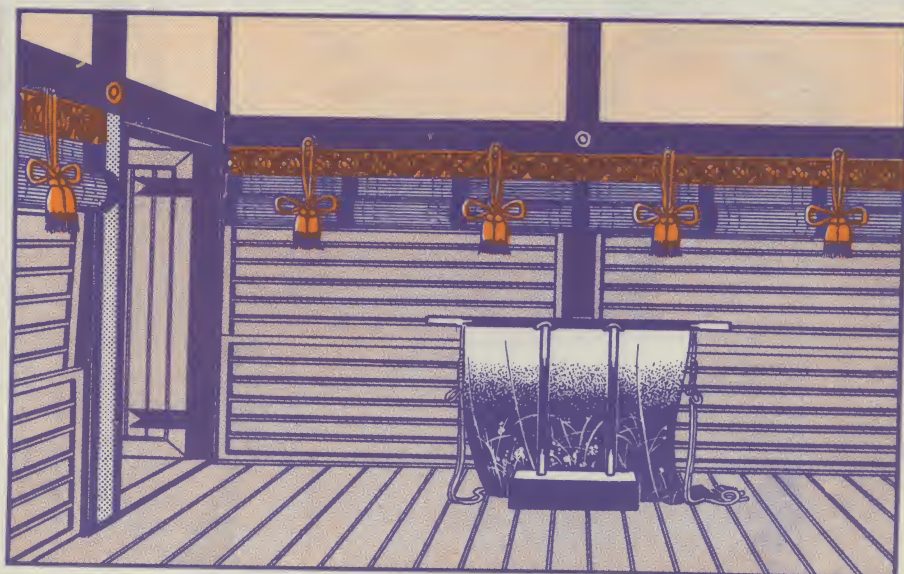
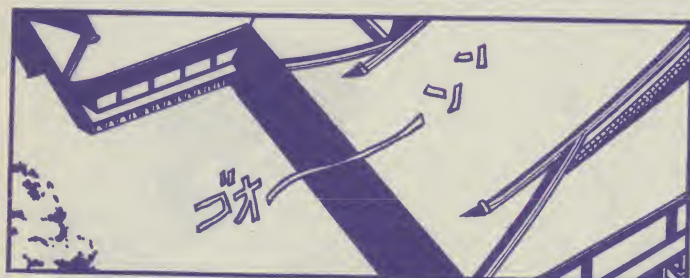
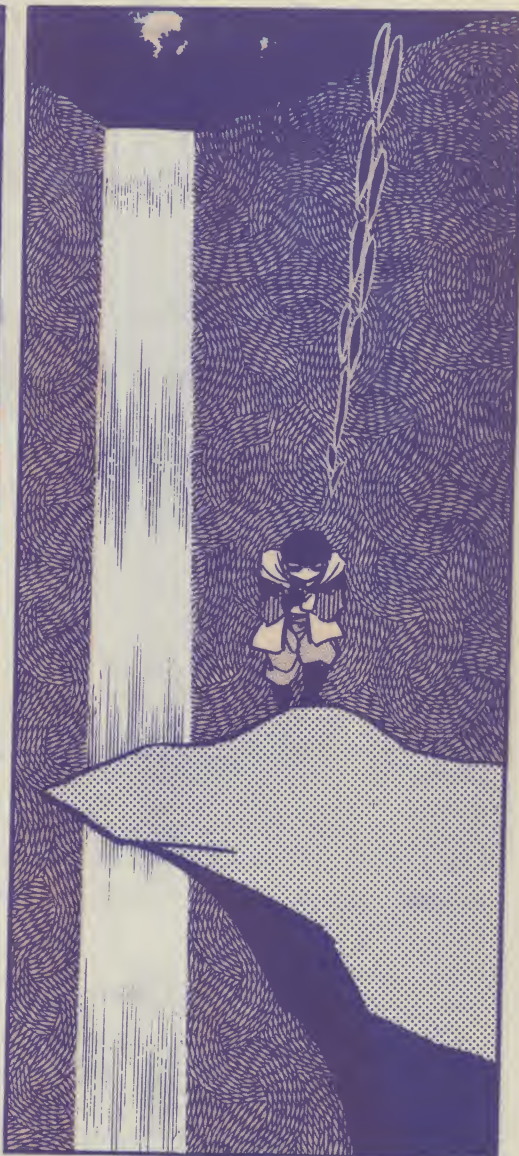
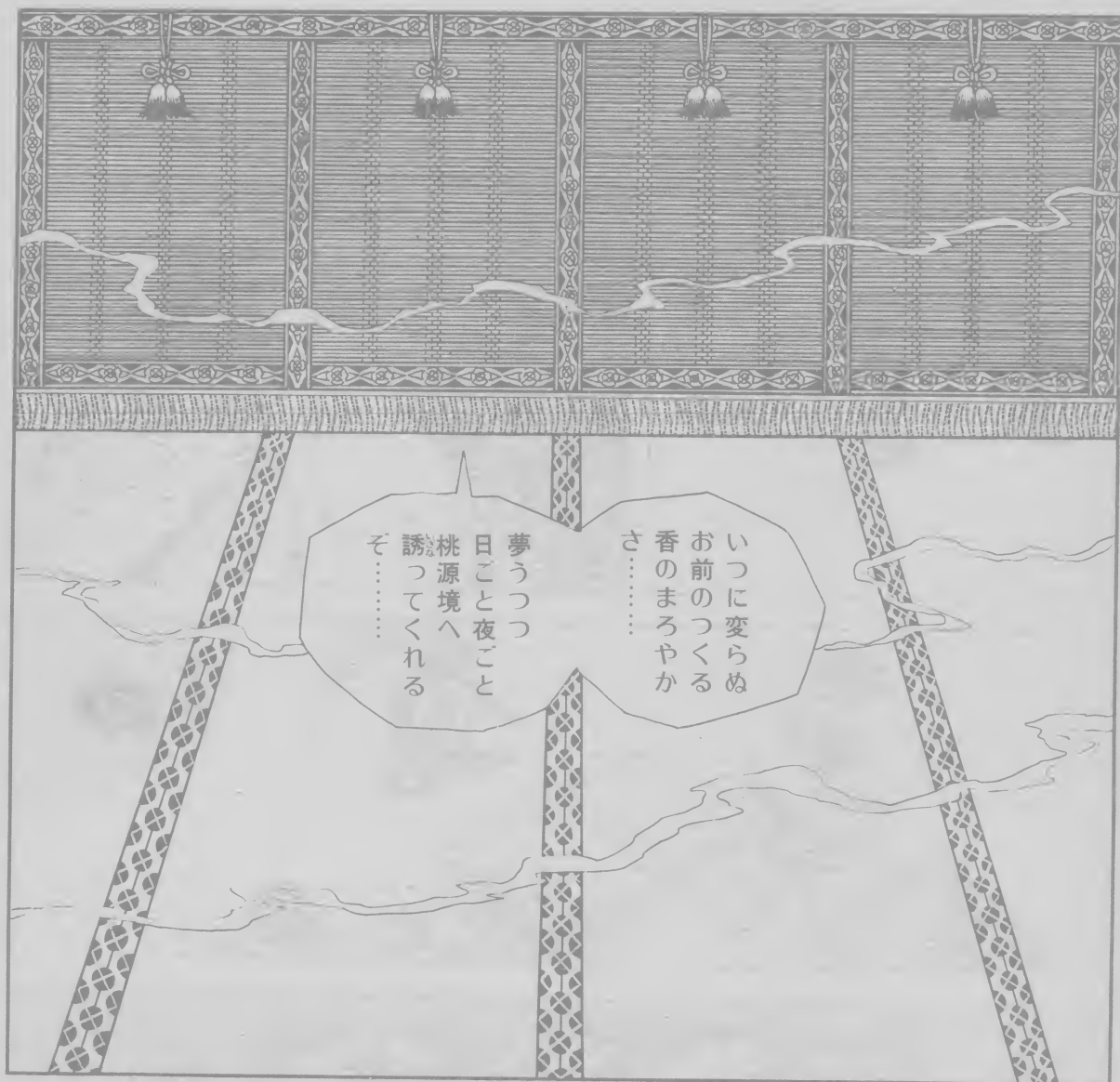
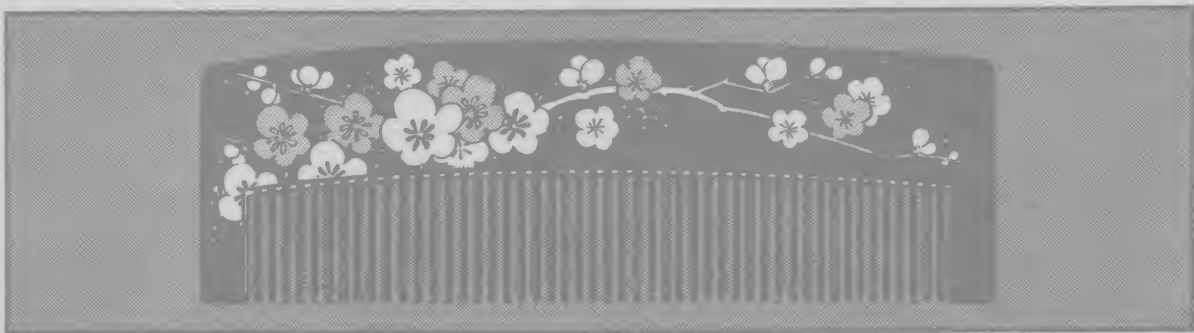
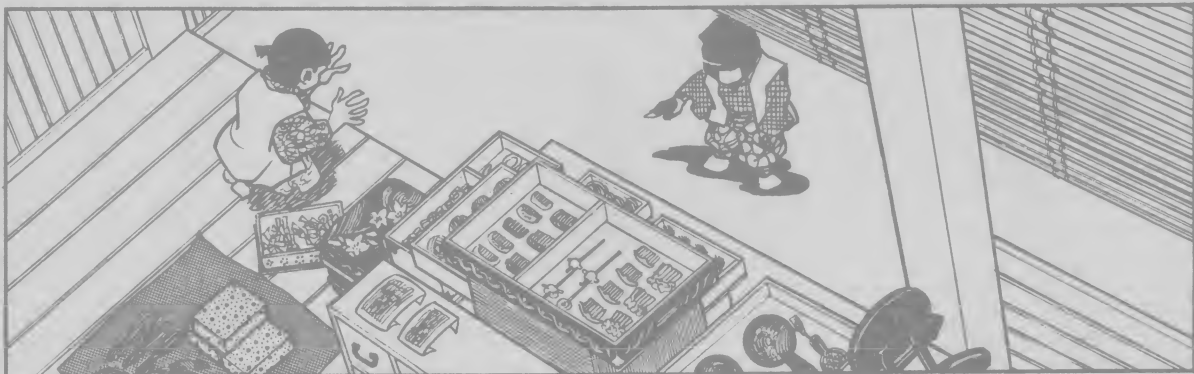
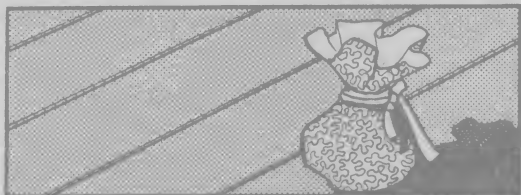
ガロ

1974・JANUARY

表紙絵・林 静一

無定陣作品
MUJOZIN

真崎・守&宮田・雪

香を生業としている菊丸夫婦が住む
その辺りは　山奥のためか秋の気配も
一段と早うございました

菊丸は都に　香の行商にでかけたの
でございます　まだ結ばれたばかりの
新妻を残していくことに後髪をひかれ
ながら　三日たったら必ず帰る　三日
たったら……
そう　いい残して　山を下りたので
ございます

ゴォーーンンン

ゴオーンン

いつに変らぬ
お前のつくる
香のまろやか
さ……
夢うつつ
日ごと夜ごと
桃源境へ
誘ってくれる
ぞ……

これは困った
ことによると今夜はここで野宿せねばなるまい……

こ……これは
このような人外境に人が住んでいようとは
それもあなたのようなうら若き女性が……

それにこの様な見事な蛍の群れを見るのは始めて……
沼の水面が闇だというのにかげろうのようにゆれている……

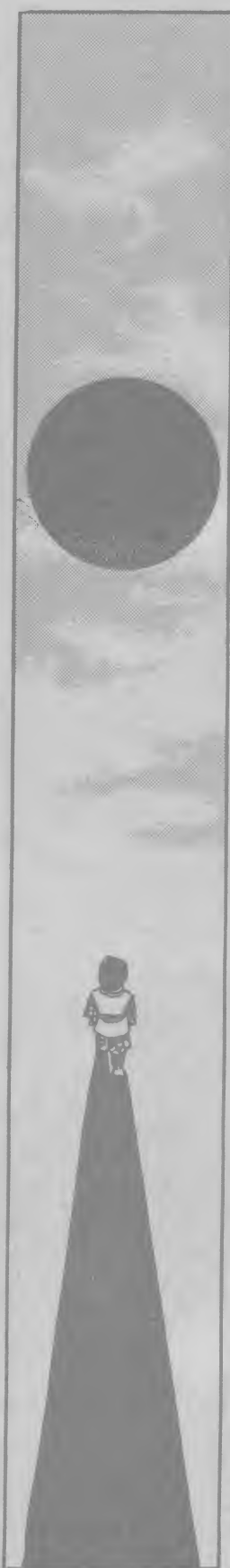
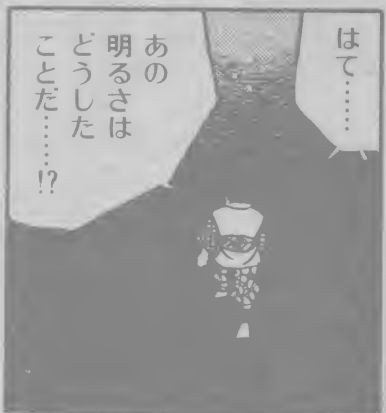
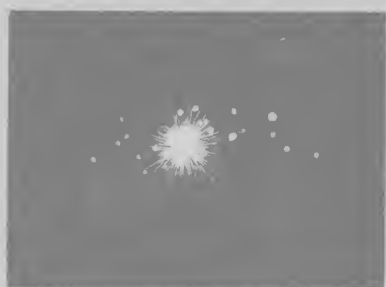
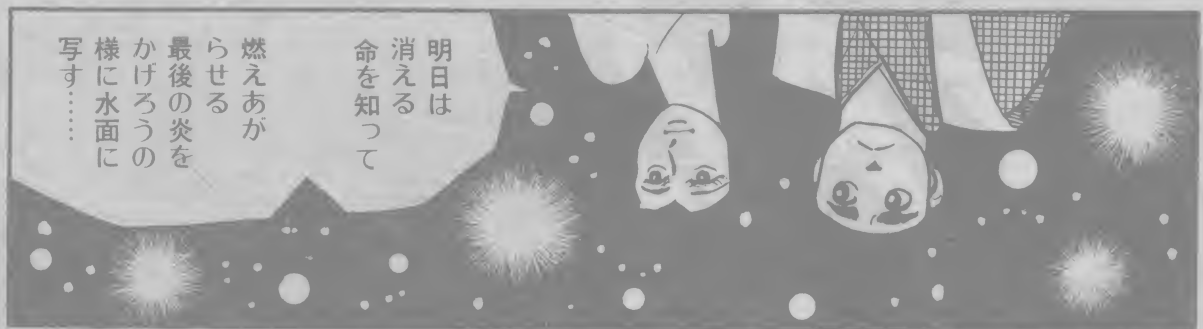
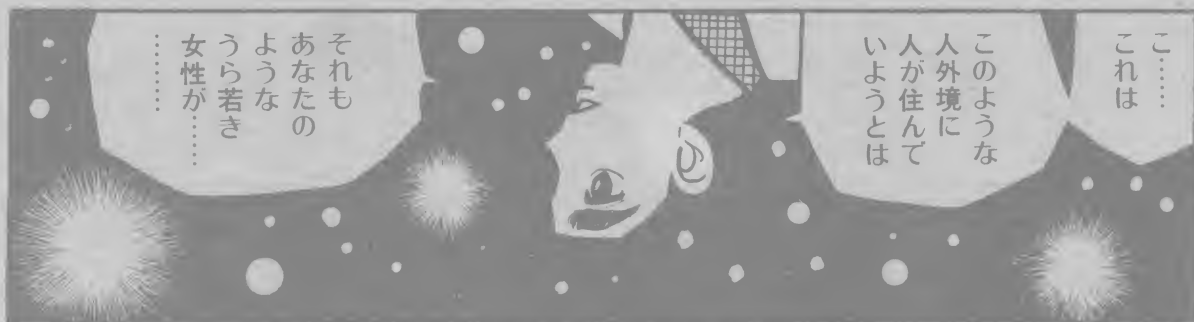
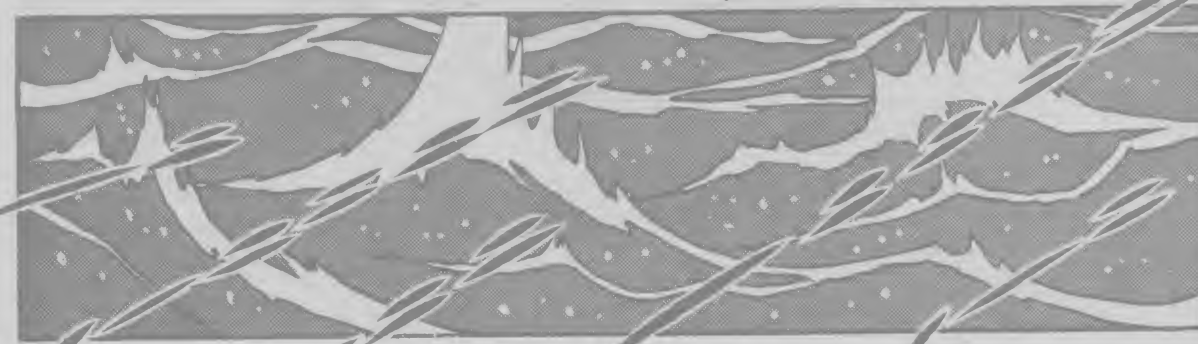
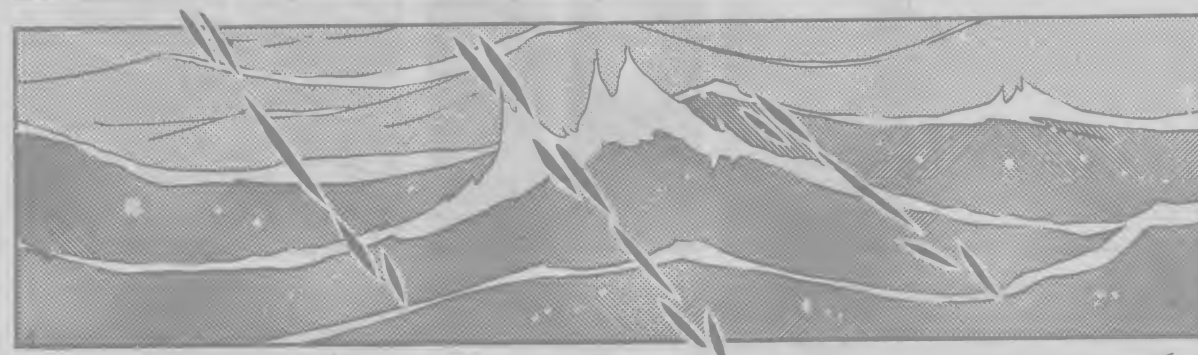
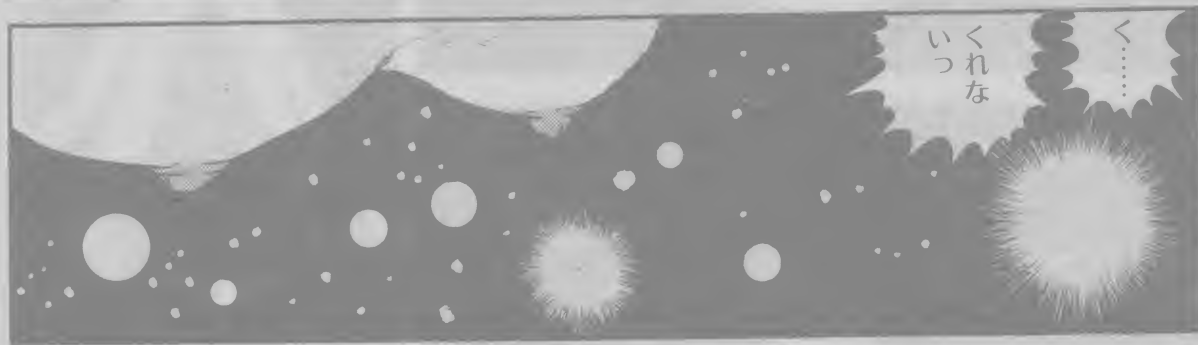
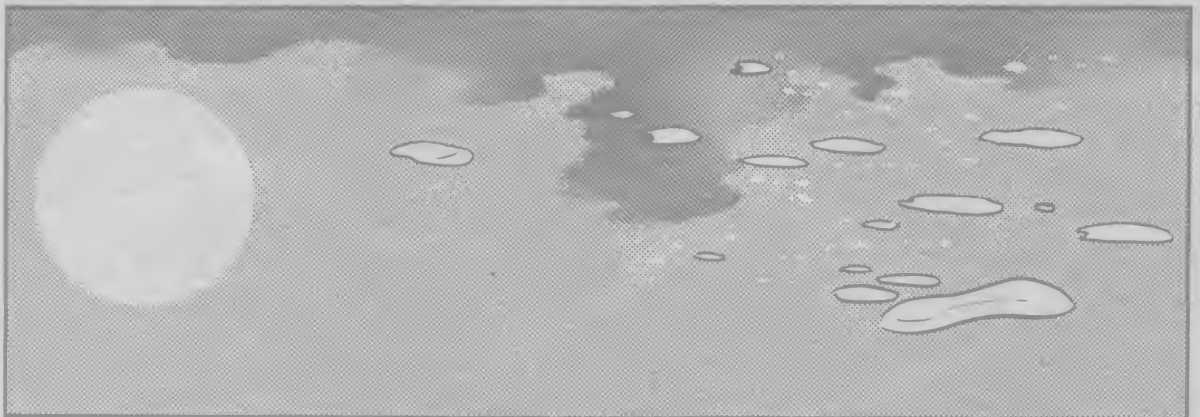
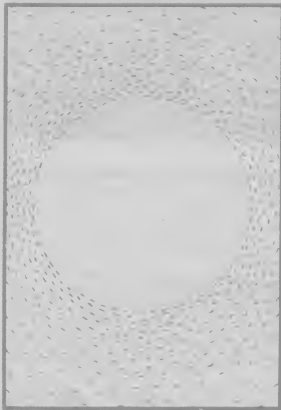
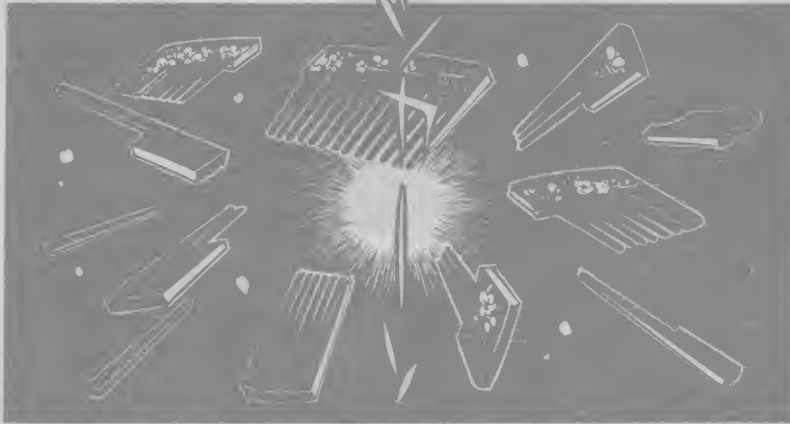
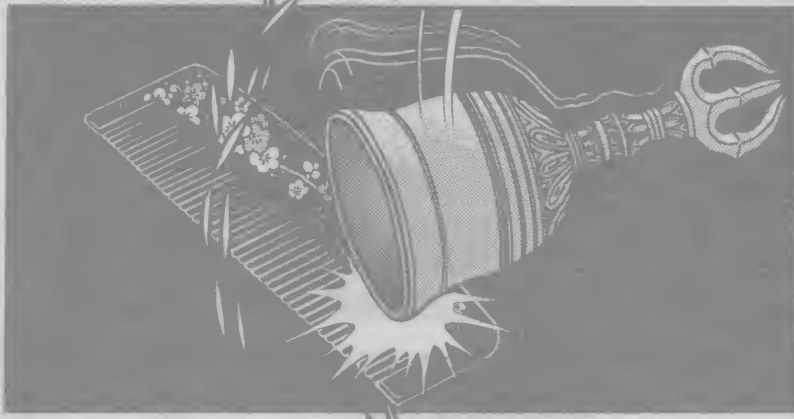
燃えているのです

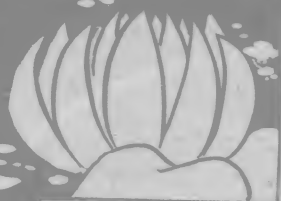
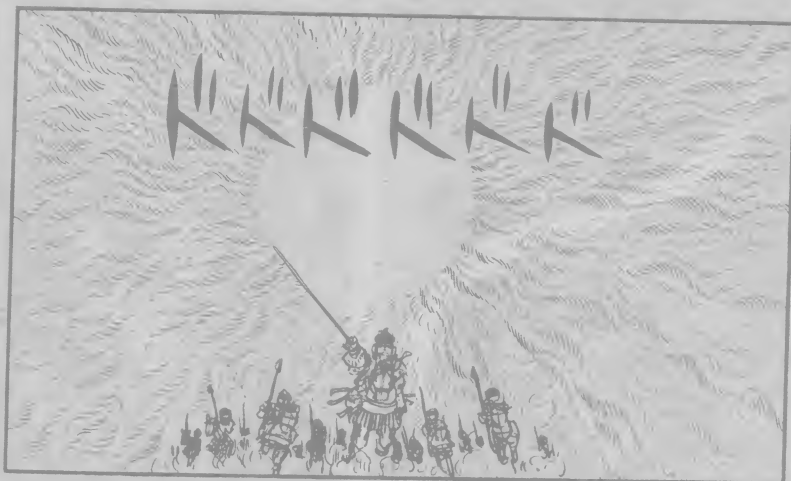
明日は消える命を知って
燃えあがらせる最後の炎をかげろうの様に水面に写す……

つかの間の命に燃えるあわれな生物
女性とて同じこと
漆黒の闇で一人待つ身の淋しさに胸の炎は業火となり燃えあがっております

あ！

く……
くれないっ

見ては……
水面を見てはいけませぬ
こ　この水面はおのが未来を写す鏡
見てはなりませぬ………

翌あさ　朝露の
冷たさに眼をさま
した菊丸が水面に
顔を写すと――

なんとその顔は
一夜にして白髪の
老人に変貌してい
たのでございます

都にほど近い
大津の緋姫(あかひめ)山に
夜叉があらわれ
旅人の首を喰(くら)う
とのことでござ
いました

幾度かの　都
からの討伐でも
夜叉の姿を見て
生きて帰った者
は一人も　いな
かったのでござ
います

もはや
日ぐれ
か……

おう
この様で
夕餉の臭い
人家がある
ようじゃ

ありがたい
ことだ
あやかしに
出合わぬ
うちに
一夜の宿を
乞うてみよう

はて……
……

この細い
山道の
蛇の様な
くねり
かた……

辺りの
野草の
生え方
……
根の
張りかた
……

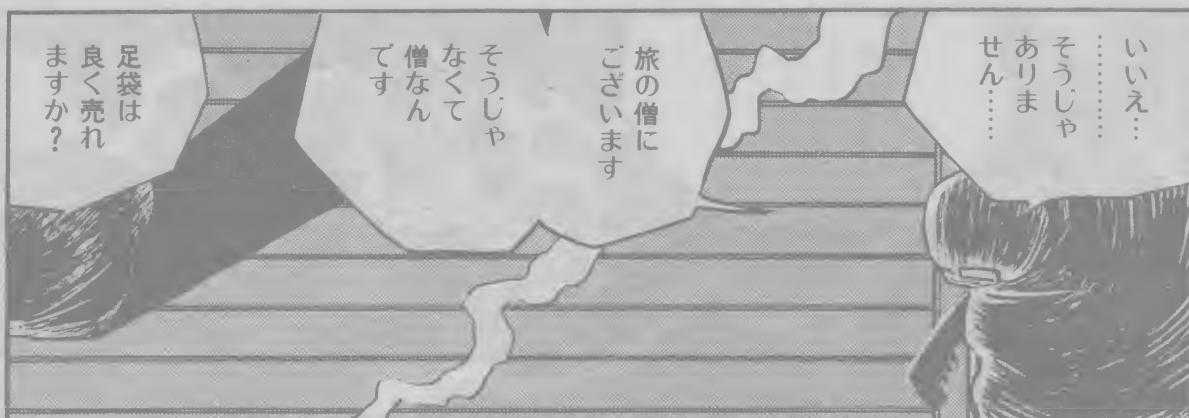
この山には
これまでに
幾度となく
来た様な
気がする
のだが……

近頃とんと
昔のことは
想い出さず
諸国を放浪
するうち
月日は水の
様に流れて
しまった……

どなた
かな……
……!?

旅の僧に
ござい
ます
今宵一夜の
宿をお願い
したいの
ですが……

そうですか
僧ですか
そうです
僧です

耳が遠くなられましたか
わたくしは旅の僧にございます
ああ
足袋の行商人ですか
タビ

いいえ…………そうじゃありません……
旅の僧にございます
そうじゃなくて僧なんです
足袋は良く売れますか？

お婆さんおひとりですか？
この山にはちかごろ旅の者の首を喰らうあやかしがでると聞いておりますが…………
あやかしとはなんてまするか？

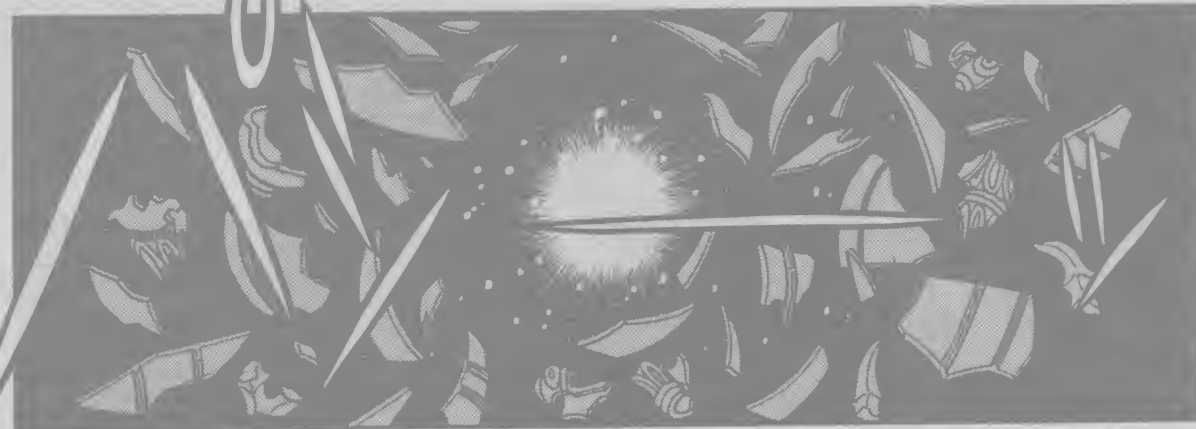
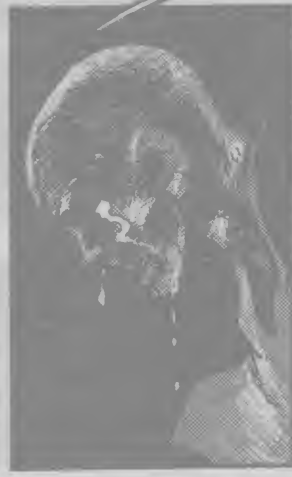
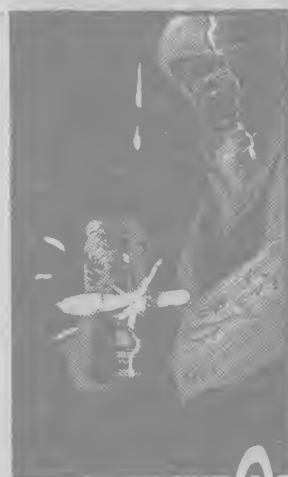
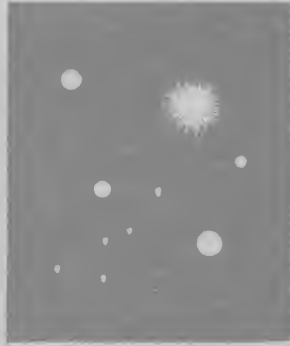
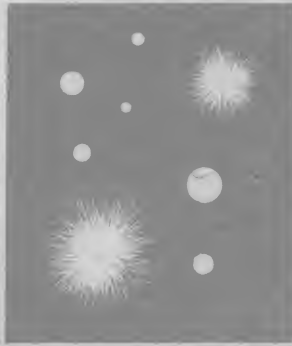
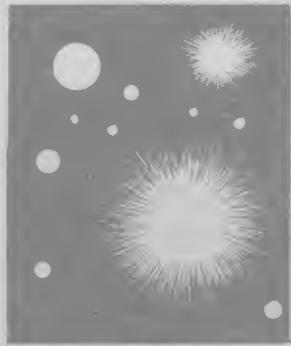
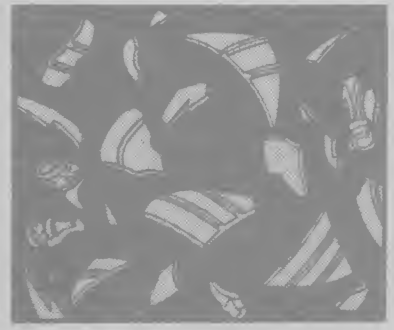
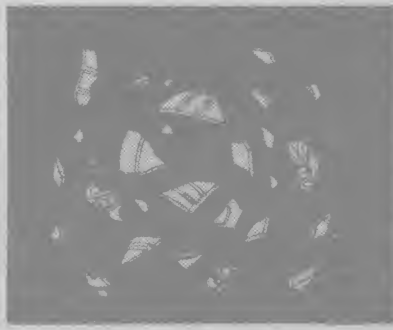
あやかしというのはですね……

あやかしーの雨にィうたれテッ
このままーぁ死んでしまぁいいいィたいく～～っ

どうも
近頃
とんと
眼か
不自由に
なりまし
てな……
見えま
せぬの
か？
ほんとに
なにも
見えま
せぬのか？

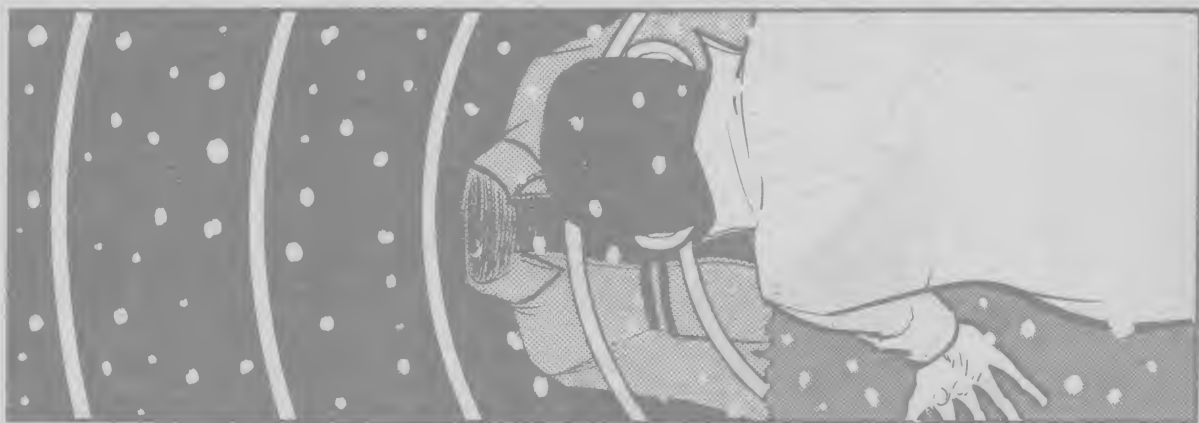
いい音色
ですじゃ
はて？

遠い昔
いずれかの
旅の空で
耳にした
……
……
ような

不思議な
ことじゃ
わたしも
そのような
音の鈴を
……

それは、菊丸が三日たったら必ず
帰るといい残して山をおりた日から

新妻は十年
ものあいだ
旅人の首の
肉を喰らい
ただじっと
夫の帰りを
待ち続けて
いたのよ

……げに
おそろしき
女の執念か
伝説に
しては良く
できている
はなしだ

菊丸が
山の中で
見たこの
沼が
未来を
写す
鏡沼か

首!?
どうしたの?
顔が蒼いわ

ら……来週の
東西大学対抗
ラクビー戦の
ために
緊張してる
せいさ……
……きっと

いよいよ
来週ね
………
必らず
応援に
行くわ!

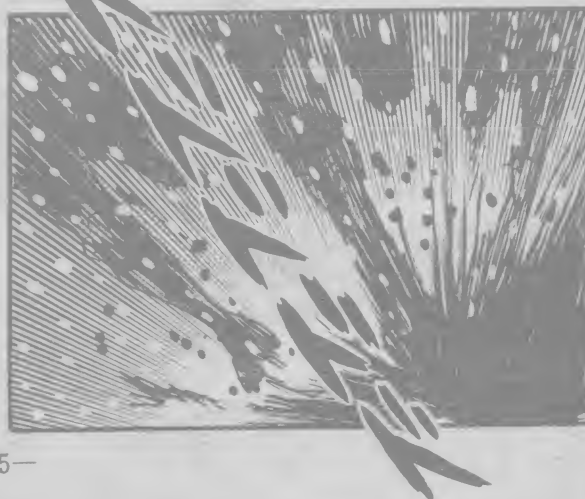
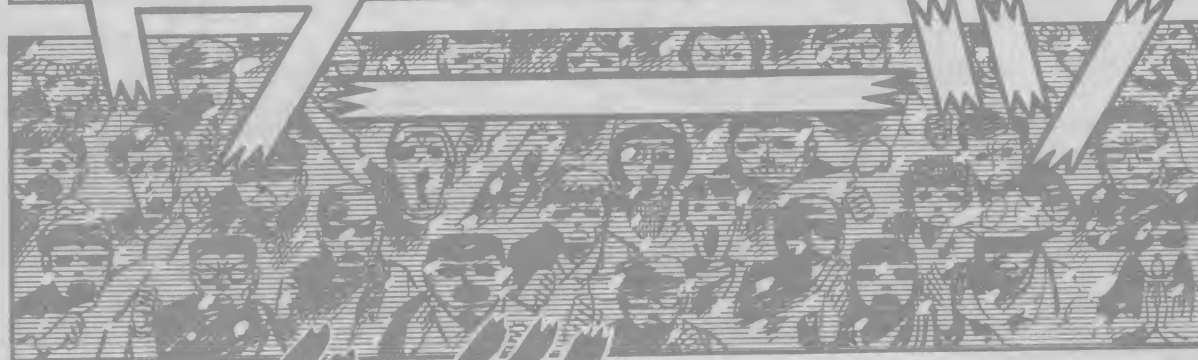
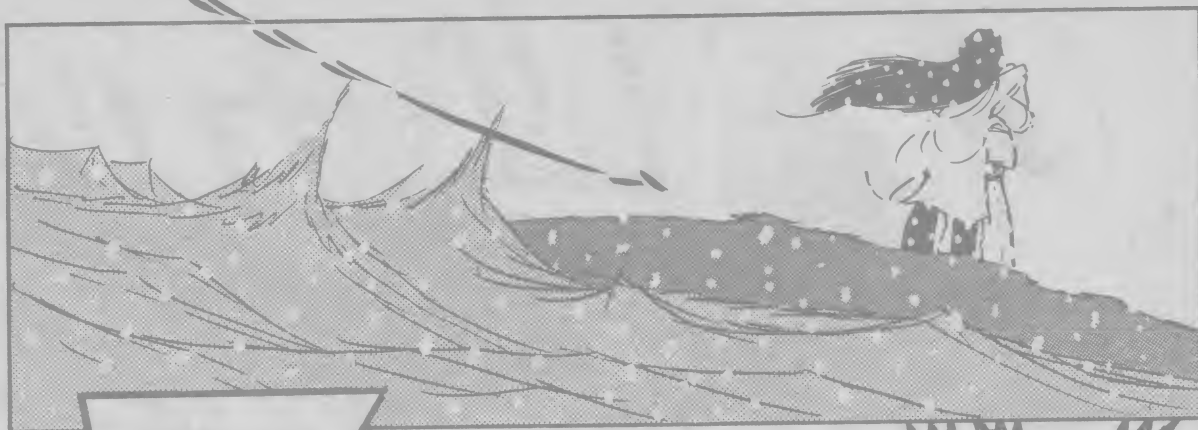
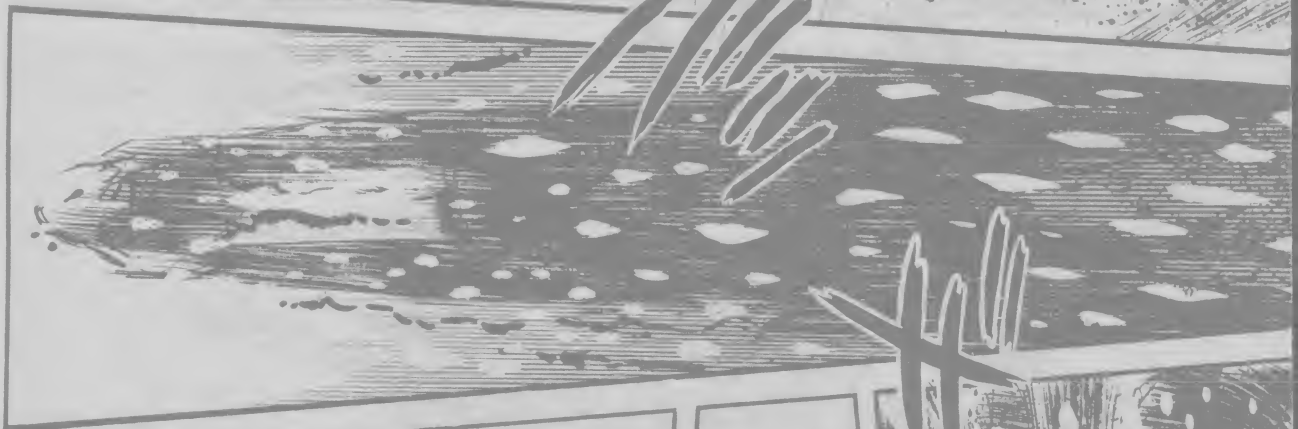
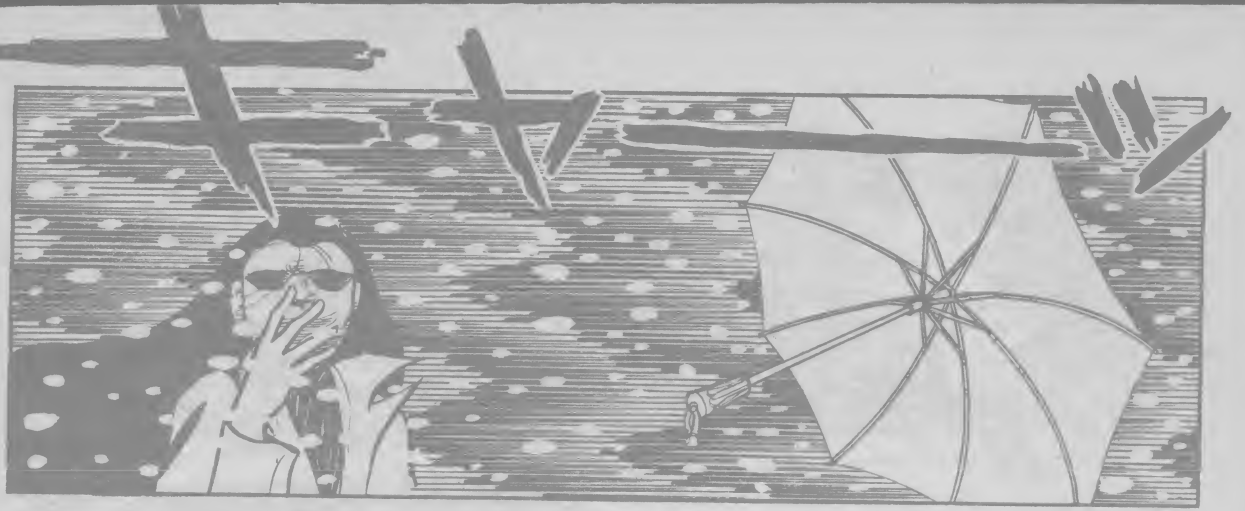
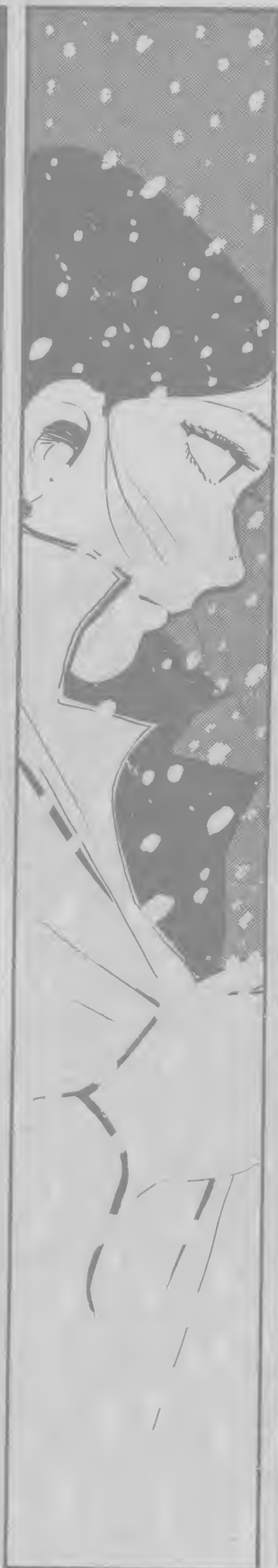
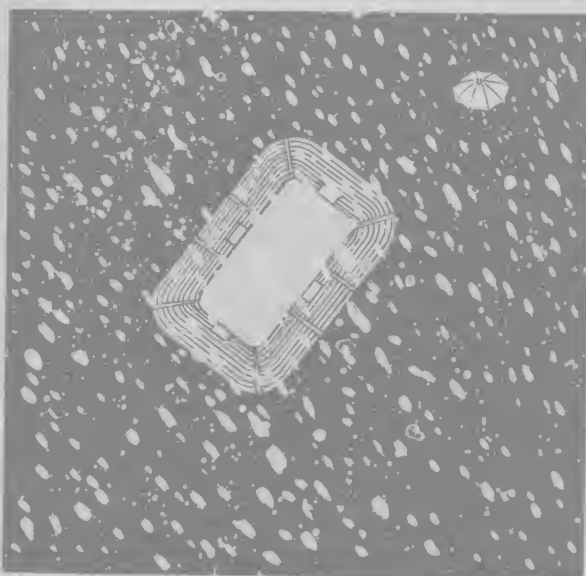
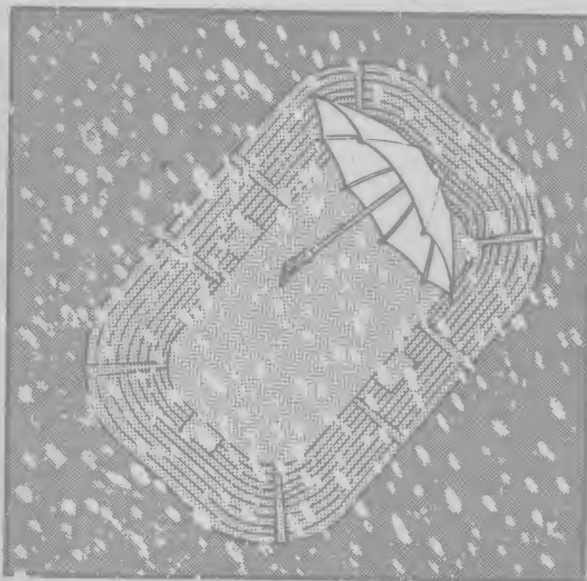
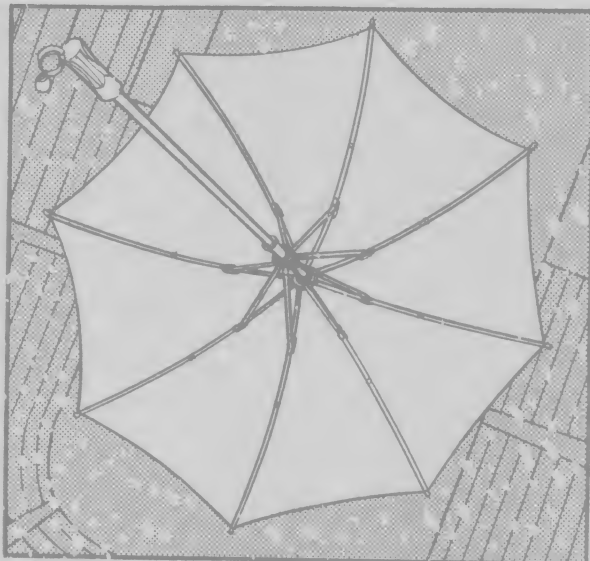
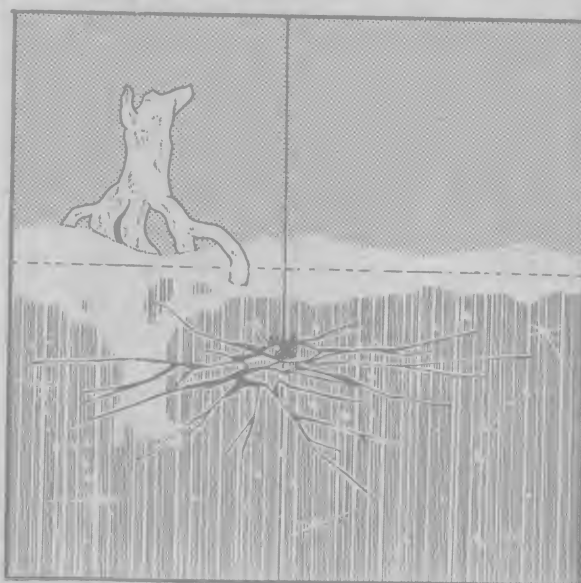
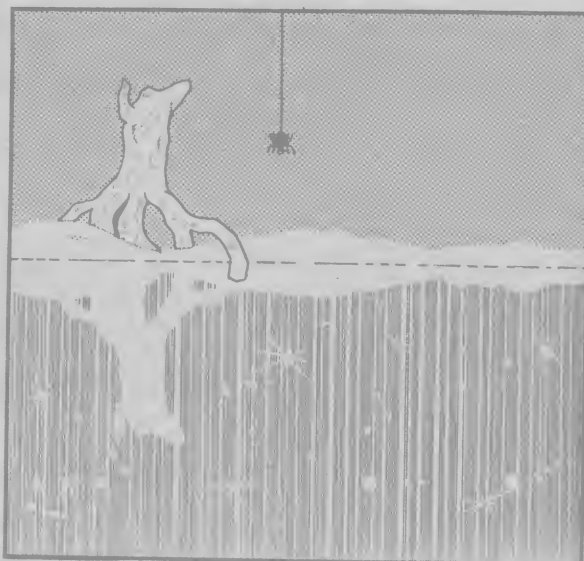
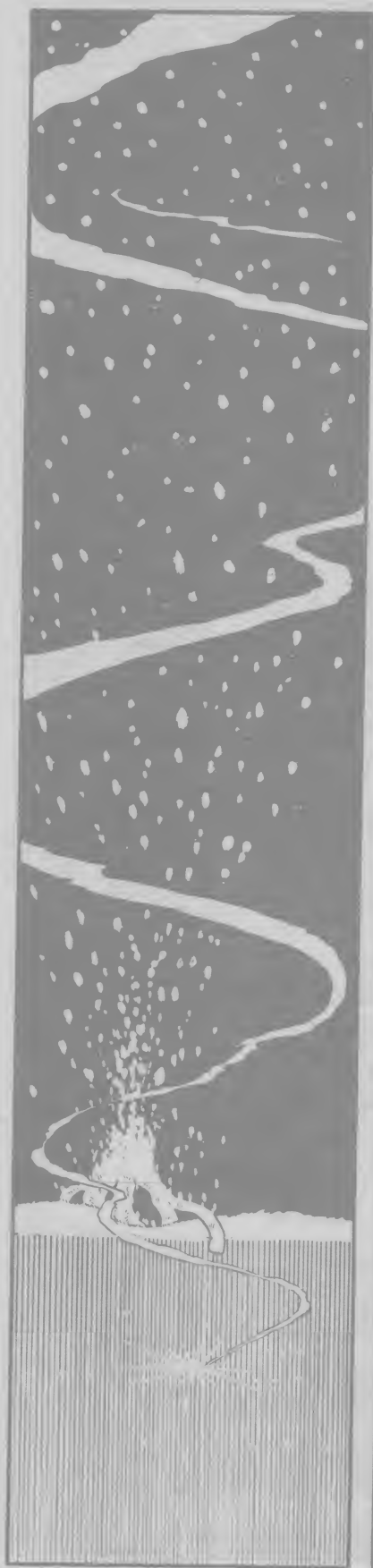
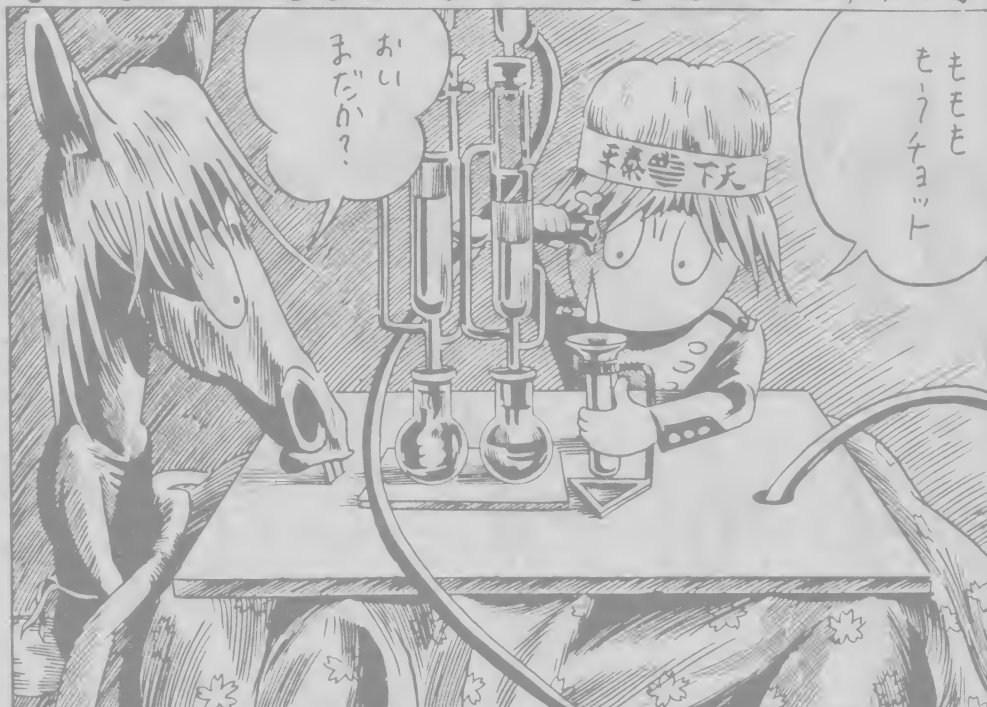
ワーッ
ザザン!
ザッ

ドカッ
ザザザザザ

キャーッ

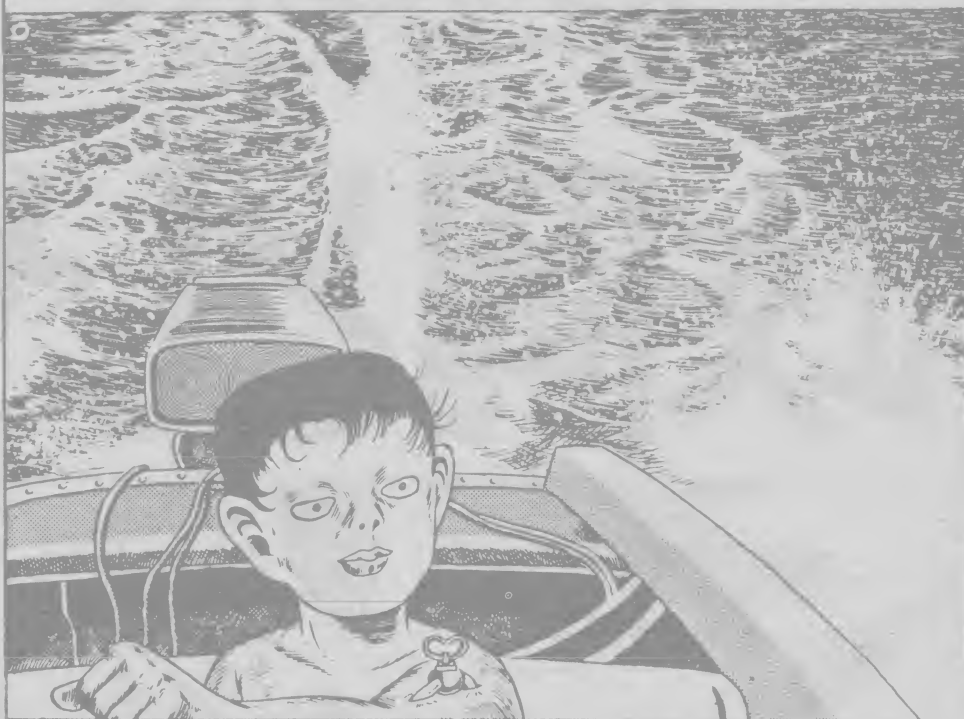
'73.11.11.〈東西兵卒とむじょーじん・相良つかさ・岡田和子・相良徹花・中島由佳〉& 宮田・雪　▲担・本田義広 出征記念作品

完

現在猛執筆中の主筆

B5判・上製箱入・総クロス・三五〇頁予価二、二〇〇円(〒一七〇円)

予約受付中！

・御予約の方に限り著者サイン本、郵送料当社負担

・万一定価の上った場合も当初の値段でお送りします。

つげ義春作品集

妖剣と交接する
呪われた将校の
エロティスム!
近日発刊!

狂葬剣記
キョウソウケンキ

A5判240P
予価
580円
(〒140)
32
現代漫画家自選シリーズ

政岡としや